

## 解説

## 遠隔システムを用いたオンライン臨床研修指導医講習会の試み

石橋 敬一郎<sup>1,2)</sup>\*, 側島 久典<sup>2,3)</sup>, 辻 美隆<sup>2,4)</sup>, 米岡 裕美<sup>2,5)</sup>, 木下 牧子<sup>6)</sup>,  
中島 宏昭<sup>7)</sup>, 村松 俊裕<sup>2,8)</sup>, 小山 政史<sup>2,9)</sup>, 魚住 尚紀<sup>2,10)</sup>, 小川 智也<sup>2,11)</sup>,  
黒崎 亮<sup>2,12)</sup>, 椎橋 実智男<sup>13)</sup>, 三村 俊英<sup>14,15)</sup>, 森 茂久<sup>1,2)</sup>

- 1) 埼玉医科大学 医学部 医学教育学
- 2) 埼玉医科大学 医学教育センター 医学部領域 FD 部門
- 3) 埼玉医科大学 総合医療センター 小児科
- 4) 埼玉医科大学 保健医療学部 共通教育部門
- 5) 埼玉医科大学 医学部 教養教育
- 6) 医療法人愛の会 光風園病院
- 7) 昭和大学 医学部
- 8) 埼玉医科大学 国際医療センター 心臓内科
- 9) 埼玉医科大学 国際医療センター 泌尿器科
- 10) 埼玉医科大学 医学部 生化学
- 11) 埼玉医科大学 総合医療センター 腎・高血圧内科
- 12) 埼玉医科大学 国際医療センター 婦人科 (婦人科腫瘍科)
- 13) 埼玉医科大学 情報技術支援推進センター
- 14) 埼玉医科大学病院群臨床研修センター
- 15) 埼玉医科大学病院 リウマチ膠原病科

SARS-CoV-2 感染拡大に伴い、各地で臨床研修指導医講習会が中止となっている。本学では Zoom を用いたオンライン医学教育ワークショップや、学生に対する遠隔実習の経験を踏まえて、臨床研修センター、IT センター、医学教育センターFD 部門で協力してオンライン臨床研修指導医講習会を開催した。オンラインでもワークショップ形式を用いた2日間の講習会が遂行でき、講習会の目的が達成できた。1つの大学で研修医教育の問題点が共有できる中での講習会であったことも、オンラインでの意見交換が徐々に円滑になった一因と考えられる。感染対策が取れること、場の安心感や気兼ねなく自分の話ができる環境であること、運営主催者がすべてのプロダクトの作成過程を容易に確認できる点については従来の対面の方式では実現できなかった利点であった。SARS-CoV-2 感染の終息次第であるが、今後もオンラインで行う必要がある場合にはさらに改善して行いたいと考える。

*J Saitama Medical University 2022; 48(2): 85-91*

(Received August 16, 2021)

**Keywords:** medical instructors responsible for clinical training of medical practitioners, remote system, workshop-format

\* 著者連絡先: 埼玉医科大学 医学部 医学教育学 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町大字毛呂本郷 38 Tel : 049-295-8066

[令和3年8月16日受付]

○著者全員は本論文の研究内容について他者との利害関係は有しません。

## 緒言

2004年度から実施されている新たな医師臨床研修制度では、医師法第16条で臨床研修指導医は研修医に対する指導を行うためには必要な経験および能力を有していなければ成らないこと、臨床研修指導医はプライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会を受講していることとされている。この臨床研修指導医が参加する臨床研修指導医講習会（以下、指導医講習会）の質を確保するため、厚生労働省の定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」がある<sup>1)</sup>。講習会開催の際には、厚生労働省における内容確認が必要であり、講習会が「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則ったものであるか確認後、開催が許可される。指導医講習会はアウトカム基盤型教育の枠組みの中でカリキュラムプランニングの実際の手順を参加者に理解して、実践できるように修得してもらうことが目的であり、開催要件には、原則2泊3日以上以上の宿泊、講習時間の合計16時間以上、ワークショップ形式で行う事とされている。ただ聴講するだけの講習会形式は認められていない。ワークショップそのものは、SGD (Small Group Discussion) と PLS (Plenary Session) の繰り返しであり、意見を持ち寄って全体討議を行うことで、参加者全体で意見の共有と同意を得てプロダクトが完成されることが必要である。さらに、この共有したプロダクトをもとに、現場での実践（研修医教育）に生かすことが必要である。また、参加資格は7年以上の臨床経験を持つ医師とされている。

2020年1月からのSARS-CoV-2感染拡大に伴い、全国自治体病院協議会<sup>2)</sup>、日本病院会主催<sup>3)</sup>の指導医講習会をはじめ多くの対面での指導医講習会が中止となってきた。しかし、2020年改訂となった「医師臨床研修ガイドライン」<sup>4)</sup>を理解し、実践していく臨床研修指導医の養成は多くの研修医を抱える大学病院の使命と考え、感染対策をとりながら開催できないか模索してきた。

本学では2003年11月に第1回指導医講習会を開催し、昨年度までに毎回28名の参加者による指導医講習会を18回開催してきた。指導医講習会はワークショップ形式での開催が重要な点であり、本学でもSARS-CoV-2感染拡大に伴い開催が危ぶまれたが、2020年8月28日、29日に実施したZoomを用いた本学新任および昇格の教員を対象とした卒前教育のカリキュラムプランニングを中心としたワークショップである第41回医学教育ワークショップ（以下、教育WS）のオンライン開催や、Zoom等を用いた学生に対する臨床推論、医療面接、他職種業務見学<sup>5)</sup>、病院見学、医師業務見学<sup>6)</sup>、重症心身障害児者とのコミュニケーション<sup>7)</sup>、小中学校教育体験<sup>8)</sup>などの遠隔実習の経験を踏まえて、本学の病院群臨床研修センター、医学教育センターFD (Faculty Development) 部門、および情報技術支援推進センター (Information Technology Center, 以下、ITセンター) が協力し、2020年11月28日、29日に第19回指導医講習会をオンライン開催した。

今回、2019年度までに実施した18回の指導医講習会を踏まえて行った、ワークショップ形式で行われたオンライン開催の概要と工夫、問題点と利点について報告する。

## 方法

### 1) 2019年開催第18回指導医講習会の内容

本学は3病院（大学病院、総合医療センター、国際医療センター）に臨床研修医を受け入れており、各病院に臨床研修センターを設置している。3病院は連携した研修を行っており、病院群臨床研修センターが3病院の臨床研修センターを統括している。指導医講習会も病院群臨床研修センターが統括し、各病院臨床研修センター交替で主催する形で行っている。また、医学教育センターFD部門、ITセンターが協力して行うのが本学指導医講習会の特徴である。

大学施設を会場に、参加者は1泊2日の宿泊で実施した。参加者は28名（7名×4グループ）であった。運営主催者は、講演会主催責任者（チーフタスクフォース：以下、チーフTF）1名、講演会世話人（タスクフォース：以下、TF）4名（内2名学外）、コーディネータ（以下、CD）は各病院臨床研修センターの指導医および医学教育センターFD部門の教員13名、IT担当4名、事務局（各病院臨床研修センター事務員）9名であった。実際のプログラムを表1に示す。特徴として4面のスクリーンを会場に設置し映写することがあげられる<sup>9)</sup>。最後の「評価」のセッションでは、作成した「目標」「方略」「評価」すべてのプロダクトを並べて映写し、参加者がプロダクトすべてを同時に確認できることで、活発な討論が行えるという特徴がある。

### 2) 2020年度第19回指導医講習会開催に向けての準備

2020年8月に教育WSをZoomを用いたオンライン方式で開催した。指導医講習会が同様の方式で開催できないか教育WS実施前から検討を行った。指導医講習会の質を確保するため、臨床研修センターの担当者も教育WSを見学し、オンラインでワークショップ形式の指導医講習会が行えるか、学内での判断を共に行うこととした。教育WSで重要な位置を占めるSGDでのプロダクトの作成は、学生実習でのSGDと同様にGoogle Slidesを用いれば遠隔でも充分可能であるとの認識が臨床研修センター担当者と医学教育センターFD部門員とで共有できたため、指導医講習会のオンライン開催を企画し、2020年9月28日に厚生労働省に開催を申請、10月27日に実施許可を得ることができた。

参加者には以下の6項目を通知し、参加可能か確認を行った。

- ① Zoomを用いて遠隔で行う。
- ② 宿泊はない。
- ③ 2日間で16時間以上を予定しており、長時間にわたりWebカメラ、マイク、モニター、スピーカーを用いた作業が続くため、大変疲労がたまる。
- ④ 2日間は休憩時間等はもちろん、早朝や夜間帯においても講習会以外の業務に従事しない。

表1 埼玉医科大学病院群臨床研修指導医講習会 進行表

## 第18回進行表(2019年度)

1日目		
セッション	事項(テーマ)	方法
	受付	
1	開会	PLS
	総合プレアンケート	
2	他己紹介	PLS
	写真撮影	
3	ワークショップとは	PLS
4	提出物・IT関連説明	PLS
	コーヒープレーク	
5	指導医の役割と業務 評価票I~IIIの記入実際と感想	PLS
6	社会が求める医師の基本的臨床能力とは (KJ法)	PLS SGD PLS
	昼食・休憩	
7	指導医として楽しそうなこと、良さそうなこと、 悩みそうなこと、難しそうなこと	PLS
8	研修プログラム立案・テーマ決定	PLS
9	到達目標	PLS SGD PLS
	コーヒープレーク	
10	フィードバック	PLS
11	SEA (Significant Event Analysis)	PLS SGD PLS
12	研修指導医のあり方(役割を含む)	PLS SGD PLS
	2日目へのつながり/1日目の評価	PLS
	情報交換会	
	宿泊	

## 2日目

セッション	事項(テーマ)	方法
	1日目の振り返り	PLS
13	メディカルサポートコーチング	PLS
14	研修方略・形成的評価	PLS SGD PLS
15	研修医へのフィードバック	PLS
	昼食	
16	評価票作成と総括的評価	PLS SGD PLS
17	臨床研修の到達目標と修了基準	PLS
	コーヒープレーク	
18	埼玉医大の研修制度	PLS
19	臨床研修の充実に向けて (2次元展開法)	PLS SGD PLS
20	総合ポストアンケート	PLS
	講習会ふりかえり	
	閉会	

PLS : Plenary session, SGD : Small group discussion

- ⑤原則として Web カメラをオンにして参加する。また、グループ討論を通じてプロダクト作成や全体発表の際にはマイクをオンにして討論に参加するので、できるだけ静かな場所(個室等)で参加する。
- ⑥タブレット、携帯端末でなくパソコンで参加する。できるだけ最新の端末を使い、十分な高速通信が維持可

## 第19回進行表(2020年度) オンライン

1日目		
セッション	事項(テーマ)	方法
	受付(参加者Zoomへアクセス)	
1	開会	PLS
	総合プレアンケート	
	写真撮影	
2	提出物・IT関連説明	PLS
3	アイスブレイキング: これまでの生涯で最も印象に残る学習体験	PLS SGD PLS
	休憩	
4	評価票I~IIIの記入実際と感想	PLS
5	社会が求める医師の基本的臨床能力とは (KJ法)	PLS SGD PLS
	昼食・休憩	
7	研修プログラム立案	PLS SGD PLS
8	到達目標	PLS SGD PLS
	休憩	
9	フィードバック	PLS
10	SEA (Significant Event Analysis)	PLS SGD PLS
	2日目へのつながり/1日目の評価	PLS

## 2日目

セッション	事項(テーマ)	方法
	参加者Zoomへアクセス	
	1日目の振り返り	PLS
11	研修指導医の在り方	PLS SGD PLS
12	メディカルサポートコーチング	PLS
	休憩	
13	研修方略・形成的評価	PLS SGD PLS
	昼食	
14	研修医へのフィードバック	PLS
	休憩	
15	総括的評価・評価票作成	PLS SGD PLS
	休憩	
16	臨床研修の到達目標と修了基準	PLS
17	埼玉医大の研修制度	PLS
18	臨床研修の充実に向けて (2次元展開法)	PLS SGD PLS
19	総合ポストアンケート	PLS
	講習会ふりかえり	
	閉会	

能な有線もしくは無線 LAN 接続にて参加する。

参加者には Zoom へのアクセスに関する案内、本来なら当日配布する指導医講習会の資料、WebClass(本学で使用している LMS: Learning Management System)、Google Slides の使用方法についてあらかじめ配布し、さらに Web-Class、Google Slides の使用方法についてスタッフおよび参加

者に対する事前説明会を開催した。また、参加者には、2020年度より導入された新オンライン卒業臨床研修評価システム (Evaluation system of postgraduate clinical training: EPOC) の評価票<sup>4)</sup>に、これまでに経験した1人の研修医の評価を事前に記入し、当日に臨んでもらうよう指示した。

3) 2020年度第19回指導医講習会

運営主催者は、チーフTF 1名、TF 5名 (内2名学外)、CD 14名、IT担当 4名、事務局 9名であった。参加者は学内3病院から26名、臨床研修協力病院から1名の計27名であった。なお、オンラインの講習会であったため宿泊はなく、1日目夜に行われる情報交換会も中止とした。

全体セッションはZoomのメインルームで行い、SGDはブレイクアウトルームを使用した。ZoomのホストはIT担当

当1名であり、それ以外のスタッフは全員共同ホストとして、各グループのSGDに自由に参加できるようにした。

TF, IT担当は4面のスクリーンを配置した学内の配信教室に待機した。4面のスクリーンには4グループのSGDで使用しているGoogle Slides等のプロダクトを映写、進行状態を常に確認した (図1)。必要に応じてTFは実際どのようにSGDで討論されているか、各グループのブレイクアウトルームに入り確認した。CDは配信教室に隣接する4部屋から、常に2名が各グループのブレイクアウトルームに参加し、各グループの進捗状況を必要に応じてTFに報告しながらSGDがスムーズに進行するようにサポートを行った。各部屋のドアは常時解放とし、換気には十分配慮した。

昨年度の指導医講習会内容とほぼ同様に進行した (表1)。例年通り「社会が求める医師の基本的臨床能力とは」についてのKJ法、「臨床研修の充実に向けて」についての2次元展開法もGoogle Slidesを利用して行った。全体発表の際に、複数のプロダクトを同時に映写する場合は、IT担当が回収したGoogle SlidesをMicrosoft Power Pointに変換し、プロダクトを別々に開きPC上に展開、それをZoomの共有画面で提示した (図2)。

得られた成果

今回は8月に行った教育WSの経験も充分生かし、臨床研修センター、医学教育センターFD部門、そしてITセンターの連携によって実施できた。各部署の持つ高い技術を「総合力」として発揮できたことが、オンラインワークショップの成功につながったと考える。参加者は自宅また



図1 学内配信教室

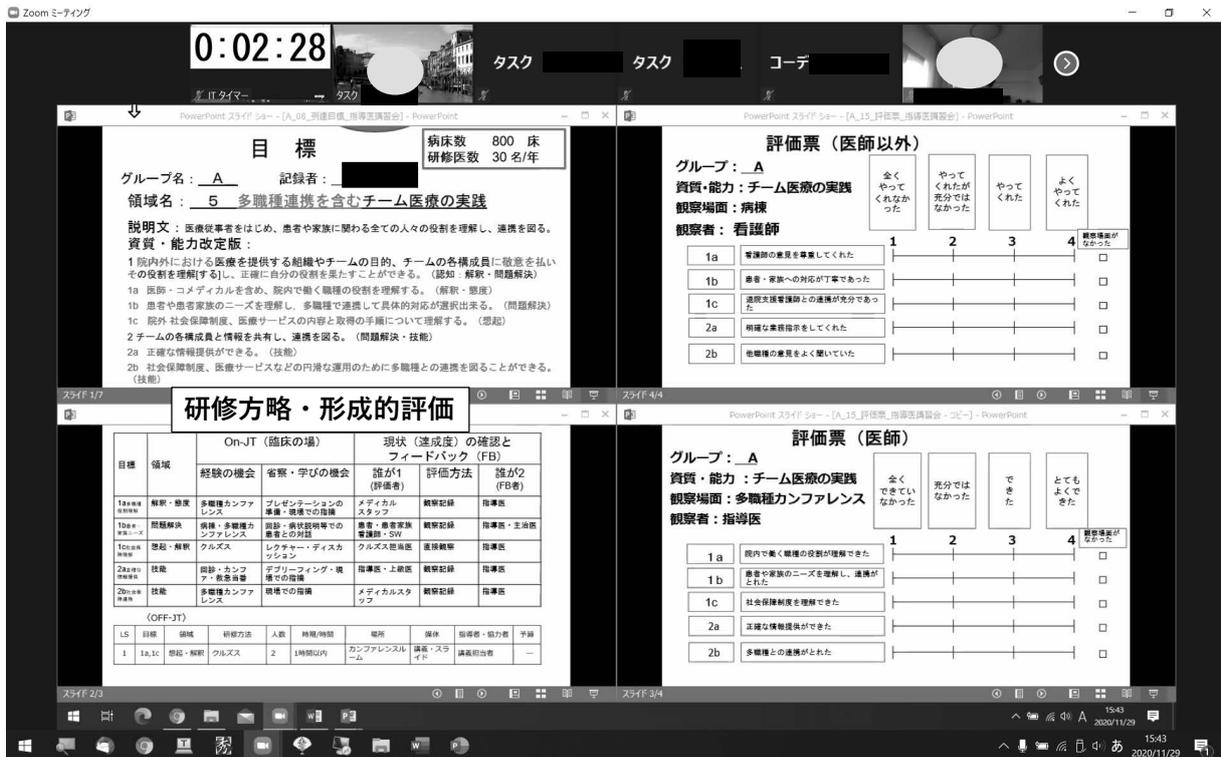


図2 プロダクトの共有画面

は職場から参加できたため、移動や宿泊の負担は少なかった。しかし、いくつか問題点もあった。参加者の Zoom 入室トラブルで開始が 10 分遅れてしまうなど、通信関連のトラブルも認められた。また、講習会のはじめはグループのメンバーがなかなか打ち解けず議論が進まないこと、Google Slides の操作に当初は戸惑ったこともあり、SGD、プロダクトの作成に例年よりも多くの時間が必要となり、SGD が予定時刻になっても終了できず 1 日目 35 分間、2 日目 25 分間、予定より時間が超過した。初日、朝の 8 時 30 分からの Zoom への接続を、PC を利用したオンライン参加の起点として、ここから 2 時間を目安に休憩時間を設定し、その後も PC での対話時間は 2 時間を限度に休憩時間を設定したが 1 日中 PC 画面の前での作業は非常に疲労したことは間違いない。

しかし、2020 年度より導入された新 EPOC の評価票<sup>4)</sup>について、参加者は事前に理解が不十分であったが、経験できる機会を得ることができた。今後の全国共通の研修医評価法を理解してもらえた事は有用な事であったと考える。研修医教育に対する目標、方略、評価の内容と理解度を確認するワークショップ前後のアンケートにおいて参加者間での一致率の変化を比較してみると、第 18 回 (2019 年度、従来形式) では 59.3% から 77.9% と上昇率は 18.9% であったのに対して、第 19 回 (2020 年度) は 52.2% から 71.7% と上昇率は 19.6% であり参加者の理解度について遜色ない結果を得ることができた。細かい表情を読んだり、討論の最中に隣同士で意見交換をするなどの細かいながらも貴重なプロセスを経ることが難しいオンラインでは、対面と同様の成果が期待できないのではないかとという運営主催者側の予測に反した SGD での議論が展開されていた結果と考えられた。このため、PL での全体討論を経た上で作られたプロダクトは、これまでのワークショップでのものと劣らない内容となり、例年の対面実施と比較して遜色のないディスカッション、プロダクトの作成、発表ができ、講習会の目的に達する成果を得ることができた。

## 考 察

今回の参加者は、学内の講師室や自宅からの参加であった。通信環境をしっかりと確保する方法として学内小会議室等の利用も考慮すべきであったと考えている。また、参加者と Zoom 上で不通になった際の連絡方法、たとえば学内 PHS を含めた通信手段の確保、細かな確認が必要であったと考える。1 日中 PC 画面の前での疲労に対して、休憩時間をもう少しとるべきであったと考えている。

講習会のはじめはグループのメンバーがなかなか打ち解けず議論が進まなかった。最初のアイスブレイキングは Google Slides の練習も兼ねてたが、使うことに集中してしまい、真のアイスブレイキングとなったか疑問が残った。もう少し Google Slides などについて具体的な練習を事前に行うべきであったと考える。しかし、徐々に打ち解けてスムーズに進行するようになった。多くの参加者が本学教育

WS に以前参加し、遠隔ではないが SGD を経験していたこと、例年の講習会と同様に、研修医教育に対する悩みなど、他の診療科ではどうなのか、自分たちだけが持っている悩みなのか、診療科間のコミュニケーションが取れたことがスムーズに進行した理由ではないかと考える。基本的な学習方法には講義、小グループ学習、一対一教育があり、それぞれ特性が異なる<sup>10)</sup>。ワークショップでは、これらのうち PLS と SGD に加え、プロダクトの発表と討論という方略も加えられ、参加者も学習リソースのひとつとなる<sup>11)</sup>。指導医講習会などのワークショップ形式の講習会では、参加者各自の経験が課題を考える上での情報源となり、かつ、他の参加者の異なる考え方や価値観が参加者自身の考え方や価値観を見直す契機となり得る。このように互いが互いの学習リソースであるためには、相互信頼と場への安心感が必要である。参加者同士の信頼は、主に同じ課題に取り組む議論や作業の中で培われものであり、十分な議論が行われる環境が必要となる。同時に、場への安心感も重要で、これは対面時よりも遠隔の方が高かったため目的が達成できたのではないかと考える。Zoom というバーチャルな空間であることで、生身の人間の発している非言語メッセージが希釈され、それらに気兼ねすることなく、自らの考え方や価値観が発信でき、ブレイクアウトすることで、同じルームにいる人以外には話を聞かれないという安心感もある。さらに、対面実施では参加者は普段の活動場所とは異なる場所で参加することになるが、遠隔の場合、自宅や職場など普段の慣れた環境から参加でき、より普段の自分の考え方や価値観を出しやすかったのではないかと考える。

プロダクト作成に使用した Google Slides は、Web アプリケーションと呼ばれる Web 上で動くソフトである。複数人が別々の場所から同時にクラウド上の同じファイルにアクセスして、同時に編集する「共同作業」が可能である。今回、KJ 法や 2 次元展開法もオンラインで行うことが可能であった。今回は Zoom のチャット機能を利用して、事前にスタッフが作成したプロダクトのひな形が入った Google Slides の URL を参加者に通知、URL をクリックすることで各グループ内で共有した。Web 上にある為、運営主催者も共有することができ、適宜アドバイスなどが可能であった。オンラインで実施するワークショップ形式の講習会で有用なツールであると考えられた。WebClass は本学の低学年から高学年の臨床実習 (Clinical Clerkship) でも利用している LMS であり、資料公開、小テスト、アンケート、レポート課題を簡単に作成できる。今回は学生教育に実施していることと同じように、アンケート、プロダクト、まとめ等の提出に有用であった。

## 結 語

指導医講習会のオンライン実施は、通信環境の問題、参加者の疲労感、アプリの修得が必要な点で従来の対面での実施に劣る面がある。一方で、感染対策が取れること、場の安心感や気兼ねなく自分の話ができる環境であること、

運営主催者がすべてのプロダクトの作成過程を容易に確認できる点については従来の対面の方式では実現できなかった利点であり講習会の目的は達成する事ができた。SARS-CoV-2 感染の終息次第であるが、オンラインで今後開催しなければならない場合にはさらに改善をして行いたいと考える。

#### 引用文献

- 1) 医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針.  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000068462.html> (閲覧日 2021 年 3 月 6 日)
- 2) 公益社団法人 全国自治体病院協議会 (JMHA) 令和 2 年度臨床研修指導医講習会. <https://www.jmha.or.jp/jmha/contents/info/188> (閲覧日 2021 年 3 月 6 日)
- 3) 2020 年度 臨床研修指導医講習会 開催案内. 一般社団法人 日本病院会. [https://www.hospital.or.jp/pdf/08\\_20201028\\_01.pdf](https://www.hospital.or.jp/pdf/08_20201028_01.pdf) (閲覧日 2021 年 3 月 6 日)
- 4) 医師臨床研修指導ガイドライン—2020 年度版—. [https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/ishirinskyo\\_kensyu\\_guideline\\_2020.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/ishirinskyo_kensyu_guideline_2020.pdf) (mhlw.go.jp) (閲覧日 2021 年 3 月 6 日)
- 5) 柴崎由佳, 柴崎智美, 金田光平, 大西京子, 杉山智恵, 荒木隆一郎, 他: 動画視聴と省察を用いた医学部におけるバーチャル他職種業務見学実習. 医学教育 2021; 52(3): 227-34.
- 6) 石橋敬一郎, 柴崎智美, 杉山智江, 米岡裕美, 荒木隆一郎, 植村真喜子, 他: 医学部 1, 2 年生に対するバーチャル病院見学・医師業務見学実習の試み. 医学教育 2021; 52(3): 221-6.
- 7) 柴崎智美, 金田光平, 植村真喜子, 荒木隆一郎, 鮫島俊介, 木下理恵, 他: 遠隔での重症心身障害児者とのコミュニケーション実習の実践. 医学教育 2021; 52(3): 215-20.
- 8) 米岡裕美, 柴崎智美, 柴崎由佳, 加藤寿, 石橋敬一郎, 中平健祐, 他: 保健指導動画作成による小中学校教育体験実習. 医学教育 2021; 52(3): 209-14.
- 9) 鈴木康文, 吉田幸生, 鈴木智, 高橋美穂, 大西京子, 斎藤恵, 他: 医学教育ワークショップならび臨床研修指導医講習会における ICT システム支援. 医学教育 2019; 50(suppl): 213.
- 10) 西城卓也, 菊川誠: 医学教育における効果的な教授法と意味のある学習方法①, 医学教育 2013; 44(3): 133-41.
- 11) 渡邊洋子. 生涯学習時代の成人教育学. 東京: 明石書店; 2002, p. 175-6.

**Commentary****Online workshop for medical instructors responsible for clinical training of medical practitioners using a remote system**

Keiichiro Ishibashi<sup>1,2)\*</sup>, Hisanori Sobajima<sup>2,3)</sup>, Yoshitaka Tsuji<sup>2,4)</sup>, Yumi Yoneoka<sup>2,5)</sup>, Makiko Kinoshita<sup>6)</sup>, Hiroaki Nakajima<sup>7)</sup>, Toshihiro Muramatsu<sup>2,8)</sup>, Masafumi Oyama<sup>2,9)</sup>, Naonori Uozumi<sup>2,10)</sup>, Tomonari Ogawa<sup>2,11)</sup>, Akira Kurosaki<sup>2,12)</sup>, Michio Shiibashi<sup>13)</sup>, Toshihide Mimura<sup>14,15)</sup>, Shigehisa Mori<sup>1,2)</sup>

- 1) Department of Medical Education, Faculty of Medicine, Saitama Medical University
- 2) Division of Faculty Development, Medical Education Center, Saitama Medical University
- 3) Department of Pediatrics, Saitama Medical Center, Saitama Medical University
- 4) Division of General Education, Faculty of Health and Medical Care, Saitama Medical University
- 5) Department of Liberal Arts, Faculty of Medicine, Saitama Medical University
- 6) Kofuen Hospital
- 7) Showa University, School of Medicine
- 8) Department of Cardiovascular Medicine, Saitama Medical University International Medical Center
- 9) Department of Urology, Saitama Medical University International Medical Center
- 10) Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Saitama Medical University
- 11) Department of Nephrology and Hypertension, Saitama Medical Center, Saitama Medical University
- 12) Department of Obstetrics and Gynecology (Gynecologic Oncology), Saitama Medical University International Medical Center
- 13) Information Technology Center, Saitama Medical University
- 14) Integrated Center for Postgraduate Medical Education, Saitama Medical University
- 15) Department of Rheumatology and Applied Immunology, Saitama University Hospital

Workshops for medical instructors responsible for clinical training of medical practitioners are being canceled throughout Japan due to the spread of SARS-CoV-2. Our university, based on its experience of online medical education workshops and remote practical training for students through Zoom, held an online workshop for clinical training of medical practitioners. This was carried out by the Integrated Center for Postgraduate Medical Education, the IT Center, the Division of Faculty Development, and Medical Education Center collaborating with one another. The two-day online session, which was held in a workshop format, achieved the purpose of this workshop. The exchange of views online gradually became smoother partly because the workshop was held in an environment where various problems related to clinical training could be shared within the same university. As well as preventing infection, such remote training delivered benefits previously unattainable via conventional face-to-face training – namely, the provision of a safe environment in which participants feel empowered to speak freely, along with the capacity for the operation organizer to easily confirm the production process for all products. If the pandemic continues, and it becomes necessary to use these means in the future, we intend to make further improvements.